

# 参照基準に関連した議論

2013年5月7日

筒井義郎

(大阪大学)

# 現状の記述と経済理論(金融を例に)

- 歴史的現象:
- 人為的低金利政策
- 金融自由化
- バブル
- 不況と金融危機
- ゼロ金利政策と量的緩和

# 金融分野の制度を形作っている要素

- 資金循環
- 金融機関
- 金融市場
- 中央銀行の役割
- 金融政策手段

# 金融理論

- 貸借と利子率
- 貨幣の本性
- 資産選択理論
- MM理論
- 金融機関の存在理由
- IS-LM理論

# 現状を教えるか、理論を教えるか？

- 問題①
- 理論⇒現状分析、が理想の姿
- しかし、現状分析について、経済学自体が一致していない⇒教えるのは、なかなか難しい
- 例:量的緩和政策の有効性
- ケインジアンvs.マネタリスト(裁量政策の是非)

## 問題②

- 理論の習得における数学の必要性
- 理論は数学抜きで教えられるか?
- 効用最大化・・・微分学
- 市場均衡・・・線形数学
- この二つの数学分野は、基本的なミクロ経済学・マクロ経済学を学ぶのに不可欠
- ⇒数学の授業の必修化が必要

# 受験における数学科目

- ほとんどの私立大学の受験において、数学は必修でない
- ⇒数学が苦手・嫌いな学生に経済学を学ばせる
- おかしなこと。なぜ？
- 経済学は文科系＝数学を必要としないとの誤った意識⇒大学間の偏差値競争⇒数学を受験科目として課さないほうが高い偏差値が得られる

- 経済学は、社会を数理論的に分析する学問であることを宣言し、理解を広める必要
- 物理学を数学の知識なしで教えると言え、ナンセンス。しかし、それをしているのが、経済学
- 受験科目に数学を課す必要
- しかし、大学間競争のため、困難
- 経済史、経営学の一部では不要?

# 経験科学としての経済学

- 帰納的ではない⇒行動経済学は帰納的
- 演繹的
- 導かれた結論を実証する
- 計量経済学、回帰分析・・・習得するものが少ない←数学の問題
- 実証分析を演習で体験することが少ない←少人数教育・演習・実習の制度や施設が整っていない⇒経験科学としての側面を学べない
- 4年生を、研究室配属として、理論もしくは実証を学ぶことが理想的(理学部や工学部のように)

# 現実とは?

- 多くの大学において、経済学の基本理論の深い理解が困難
- 金融、財政、労働、産業組織、日本経済論などは、応用経済学ではなく、経済学とは別の科目として教えなくてはならない傾向
- 理論的説明を与えられずに、制度的事実だけを教えられる傾向
- 理論的分析の習得の後に来るべきその応用＝理論モデルの構築や、実証分析の実習が欠けている

# 教養としての経済学は？

- 制度的事実の習得か？
- 基本的な(ミクロ・マクロの)理論・考え方の習得か？
- 先の指摘のように、専門としての経済学の習得で躓いている

# 大学院とのすみわけ

- 学部では、静学的理論＋多市場の一般均衡分析まで学ぶ
- 大学院(修士)では、動学理論＋ゲーム理論

# 教養

- 経済学の専門教育が徹底していない・・・教養として学んでいる？

- 本来の教養は：

専門の経済学を深く学んだ後、それとの関連で、心理学、法律学、政治学、歴史学などを学び、基本的な考え方・接近法の違いを知る。

# 経済学で学ぶこと

- 何事も、絶対的な善はなく、利益と費用のトレードオフがあること。そのトレードオフのもとで、相対的に優れた制度・社会を設計していくこと
- 人間は利己的な動機に基づいて行動することが多いので、それと矛盾しないインセンティブ設計をすること。(ただし、人間の性向はより多様であることに留意する必要がある)
- 社会設計だけでなく、個人の人生における問題解決法についても教えるところが多い。

# 経済史

- 文学部の歴史学とどう違うのか？
- 経済理論を用いた経済史？
- 数量経済史や理論経済史
- ただし、記述だけだとしても、経済学の習得には、経済史の接近法は有用